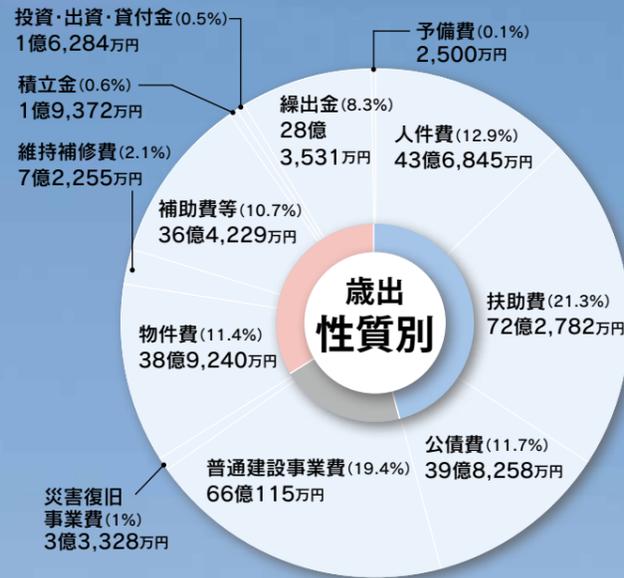
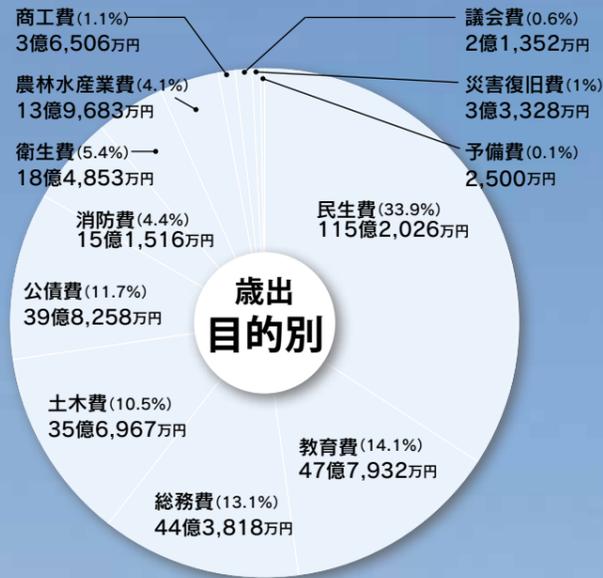


一般会計

339億8,739万円

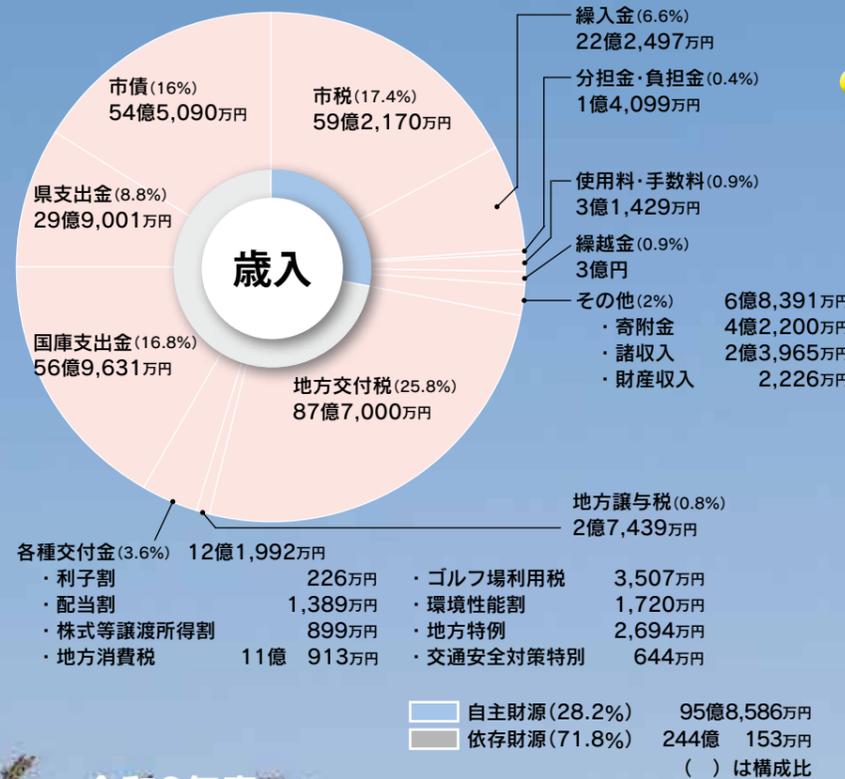
前年度から11億5,834万円の減額

● 一般会計の歳出



■ 義務的経費(45.9%) 155億7,885万円
■ 投資的経費(20.4%) 69億3,443万円
■ その他経費(33.7%) 114億7,411万円

● 一般会計の歳入



● 歳入の状況

市税
 主な自主財源。個人所得の伸びや償却資産の課税適正化を要因として、前年度比 8,830 万円の増額

地方交付税
 主な依存財源。合併から 15 年間優遇されていた措置が無くなったため、前年度比 3 億 2,000 万円の減額

市債(市の借金)
 普通建設事業費の減(※「歳出の状況」参照)により、前年度比 15 億 2,080 万円の減額

財政調整基金(市の貯金)
 前年度を上回る歳入の不足が生じるため、21 億 6,355 万円を取り崩し

● 歳出の状況

扶助費

昨年 10 月から始まった幼児教育・保育の無償化関連経費や障がい福祉費の増などにより過去最大を更新し、前年度比 1,923 万円の増額

公債費

熊本地震からの復旧費用として借り入れた資金の返済が本格的に始まるため、前年度比 5 億 4,254 万円の増額

普通建設事業費

防災コミュニティ施設整備や学校施設(松橋中学校・不知火小学校・給食センター)改築の事業費が減少し、前年度比 20 億 6,444 万円の大幅な減額

補助費等

光通信網整備事業の完了や熊本地震で被災した宅地復旧件数の減などにより、前年度比 4 億 275 万円の減額

令和2年度
 施政方針・当初予算

RAY!WA!JUMP

2月17日から3月16日にかけて第1回市議会定例会が開かれました。守田憲史市長が示した今年度の施政方針と可決成立した予算の概要をお知らせします。

令和2年度施政方針

熊本地震から4年。市政は復旧から復興へとシフトチェンジし、市民生活の再建も本格化してきました。今年度の予算では、これまで合併特例期間終了後の財政運営に備えて蓄えてきた財政調整基金を、2年連続で取り崩しています。それは、今後も市の財政収支の見通しが楽観できる状況ではないにしても、復興のためには市民ニーズを的確に把握・分析し、重点事業をはじめ、特に取り組みを強化すべき施策・事業を推進する必要があるからです。



全文はこちらから

予算規模

当初予算は、前年度から11億5834万円減額の339億8739万円ですが、本庁舎をはじめとする公共施設の老朽化対策や教育環境の整備など、予算規模は依然として熊本地震前より大きくなっています。

第2次宇城市総合計画で掲げた6つの基本目標に沿った施策へ予算を配分して、まちづくりを進めていきます。

持続可能な財政運営を実現するために

歳入は、市税の増収を見込んでいますが、自主財源の割合は28・2%と依然として低い水準です。加えて歳入の4分の1を占める普通交付税が優遇措置の終了に伴い減少することで、市の貯金を取り崩して対応するなど厳しい財政状況となっています。今後も、熊本地震からの復興やさまざまな行政課題へしっかりと対応するために、財源の確保と効率的・効果的な予算執行に努め、将来世代に負担を先送りすることのないよう、より一層の財政健全化に取り組んでいきます。